

田中光顯 たなか みつあき 政治家。天保十四年閏九月（二十五日）佐國生れ、昭和十四年二月二十八日歿（八四三—一九元）。舊姓濱田、字揚卿、通稱濱田辰彌、田中顯助。號青山、青山居士。武市瑞山の學び、土佐勤王黨に加はる。元治元年脱藩して土津川の義舉に關與。慶應二年中岡慎太郎等による薩長聯合の周旋を助勢、また中岡の薩援隊幹部となる。維新後兵庫縣權判事、大藏少丞、兵庫頭等を經て、明治四年の岩倉遣外使節團に隨行。のち元老院議員、會計検査院院長、警視總監、宮中顧問官、學務院院長を歴任。三十二年宮内大臣。伯爵。晩年は維新烈士の顯彰に盡力。

著書、『名士の嗜好』（合著・中央新聞社編、明治二十二年一月二十一日文武堂）、『昭憲皇太后と佛敎』（合著・法藏館編輯部纂、大正二年五月十五日京都・法藏館）、『維新夜話』（昭和十一年四月十六日改造社）、『憂國遺言』（田中首樹編、昭和十五年四月二十五日書房）等。文獻に、田中光顯伯爵發會『田中青山の生涯』（昭和四年六月二十九日文武幾太郎刊）、澤本江南著『霞ヶ浦を縱斷して—田中伯爵の水郷めぐり』（昭和四年十一月五日青山書院）、『青山田中光顯翁長壽祝賀會記録』（昭和八年四月二十日田中光顯祝賀會事務所）等

おのゝ。